

第7回糸島市総合計画審議会

【意見集約票】

はじめに	
意見内容	
(那須委員) タイトル、「はじめに」の上の段（空欄）に「人とまちの魅力が輝く豊かさ実感都市」をめざしてとの一文を入れて、再度、このキャッチコピーを強調してはどうでしょうか。 (那須委員) 本文 1～2 行目 改行ポイントの工夫による文章の見せ方にメリハリを持たせてはどうでしょうか。 糸島に住むこと・訪れること自体に付加価値があり、暮らしの豊かさを実感することができる「人とまちの魅力が輝く豊かさ実感都市」をめざした、第2次糸島市長期総合計画がはじまります。 ↓ 糸島に住むこと・訪れること自体に付加価値があり、暮らしの豊かさを実感することができる「人とまちの魅力が輝く豊かさ実感都市」をめざした、第2次糸島市長期総合計画（20**年～20**年）がはじまります。 (古川委員) 糸島市（役所が）、主体的立場として文書表現すべきではないかと考えます。 < 5 行目 > 現行：それぞれの内容がまとめられたものとなっています。 ↓ 修正：それぞれの内容をまとめたものです。 < 7 行目 >	

現行：読み進めることができる構成になっています。

↓

修正：読み進めることができる構成にしています。

< 9 行目 >

現行：誰もが活用することができる総合計画となっています。

↓

修正：誰もが活用することができる総合計画です。

< 15 行目 >

現行：基本計画において、各施策に関連する SDG s の目標を掲載し、

↓

修正：基本計画において、各施策に関連する SDG s の目標を掲載し、
(SDG s は、持続可能な開発目標の意味であるため削除)

(三谷委員)

- ・ 1 行目の行送りがおかしい。「人とな」で送らず意味がわかるよう改行。
- ・ 7 行目、「どちらからも」は「どちらからでも」ではないか。
- ・ 8 行目、「糸島市を発信し、」という意味がよくわからない。

(中尾委員)

基本計画から読んだ方も基本構想のエッセンスが伝わるように、以下の文言は盛り込むべきと考えます。

- ①持続可能なまちを目指し、市民力・地域力を発揮して、「新しい時代の糸島」をつくりあげていく」
- ②人とまちの魅力が輝く 豊かさ実感都市 いとしま
- ③ワンランク上のまちづくり
- ④自立度の高い糸島づくり
- ⑤魅力を磨き上げる糸島づくり
- ⑥住みやすい・住み続けたい糸島づくり

(中尾委員)

「みんなで」の前に、市民一人ひとり、市民グループ、各団体、企業、行政が協働の気持ちを持って「みんなで」としたほうが、市民一人ひとりの意識の向上につながると考えます。

(中尾委員)

糸島のまちづくりに取り組んでいただければ幸いです。⇒上記の協働体制で、糸島に関わる全ての人がチームとなり、糸島のまちづくりに取り組んでいきましょう！

(加藤委員)

冒頭

「糸島に住むこと・訪れること自体に付加価値があり」の部分

付加価値や訪れることが気になります。ストレートのほうが良いのではないのでしょうか。

「糸島に住むこと（住んでいること）で、暮らしの豊かさを実感することができる・・・」

その他 「読み進めるとまちづくりを進める」が見づらいので読み進めるは、他に変えて、まちづくりを進めるは、ひらがな表記が見やすいと思いますがどうでしょうか。

(佐藤委員)

①内容というより、文法について。(すみません、もともと日本語教師なので、とても日本語が気になります)「主体」が分かりにくい文章になっています。下記のような表記にしてはどうでしょうか。

・それぞれの計画をまとめました。(原文「総合計画・・・の内容がまとめられたもの」となっていて、主体がはっきりしないので、力のない印象を受けます。「まとめられている」は総合計画を主語とした受身表現です。総合計画自身が自発的にまとめられることはないので、違和感があります。)

・誰もが活用できる総合計画です。

②SDG s が唐突な印象があります。世界の潮流として、というのかもしれませんが、市民の方がどれだけ身近に感じるのかは分かりませ

ん。また、今の計画をしっかりとやれば、社会は良くなるので、SDG s と関連付けなくてもいいと思います。

（藤原委員）

SDGs のロゴが小さすぎて、各々のロゴに記された 17 種類のゴールが正確に読み取れません。ロゴをもう少し大きくする必要があると思います。さらに、用語解説候補リストを見ると、SDGs の用語解説が序論の 6 ページとして記載されていますが、17 個のゴールの各々についてロゴと共に、簡易な説明も加えたほうがいいのではないかと思います。

（豊田委員）

資料の構成に関する意見ですが、記入する場所が見当たらないのでこちらに記入します。各政策が「第 1 部（序論）の第 2 章（糸島を取り巻く背景）の 2（糸島市の主な現状と課題）」で挙げたどの課題の解決策なのかを示す資料が必須だと感じます。今の構成だと課題と政策の結びつけが不明瞭で、政策の必要性や有効性の根拠が希薄です。

（中尾委員）

新型コロナウイルスの影響を分析し、その対策という視点も盛り込むべきと考えます。（施策の課題に盛り込むことが、難しければ、重点課題プロジェクトに盛り込む）

	基本計画の構成
章	第 1 章 施策の展開
意見内容	
（那須委員） ○表について 縦軸「基本目標（戦術）」の部分 基本目標 1 未来社会で輝く子 どもを育むまちづくり ↓ 基本目標 1 未来社会で輝く 子どもを育む まちづくり 基本目標 2・4 も同様に、「まちづくり」の文言のみ一番下の行に統一してはどうでしょうか。 （那須委員） 表中の「施策」部分 政策の（1）子育て・親育ちの支援の充実 施策の② 「妊娠から出産・子育ての切れ目ない支援」 ↓ 「妊娠から出産・子育ての切れ目のない支援」	

(古川委員)

基本目標 1

未来社会で輝く子どもを育むまちづくり

(2) 保育・学校教育の充実

施策② 児童・生徒の学力や体力の向上

※心(徳育)の育成もなくてはならない、重要な課題であるとする。

(藤原委員)

基本目標 5、政策 (3)、施策②おもてなし環境の整備という部分が、38 ページでは、おもてなし環境の充実となっています。

(柚木委員)

P3 主な取組 教育の日 (11 月 1 日) → 柱にするには認知度が低い

P5 主な取組 (Q-U 調査) → 糸島市独特の取り組み (内容) ですか

P6 主な取組 大規模改造 → 規模縮小ある場合 3F → 2F にする等 (耐震考慮有利)

P10 目標達成指標 → 自治会への加入率

市民参加のまちづくりをめざす為にも目標は 100%

(中尾委員)

市民の皆さんからも意見・要望の多い、「交通環境の充実」のみ施策が一つしかない。①公共交通網の充実②自主運行バスや民間の取り組みなど、新たな交通体系の構築として、内容の充実を図るべきとする。

(加藤委員)

P23 基本目標 4 施策に関する目標達成指標の中段 連携件数 → 相談受付件数

P25 " " 現状 (R1) 2箇所 → 14 箇所

P30 " 現状と課題 2 項目

フレイル予防と介護予防の表記ですが、大きな枠で介護予防、狭意味でフレイルなので、少し注釈を入れ、特に健常から要介護へ移行する中間の段階（虚弱状態）への取組であるフレイル事業を強化していく必要・・・にしたらどうでしょう。また、語句説明もフレイルという単語の意味よりフレイル予防で説明するほうがわかり易い。

P30 〃 主な取組の☆印 フレイル予防事業を構築 → 推進のほうが良い。

P30 〃 主な取組の3行目 します。する。

（佐藤委員）

①主な取り組みの文章の冒頭、☆と○の違いは何ですか？もし、意味がなければ、どちらかに統一したほうが良いと思います。

②P3「施策①」の「主な取り組み」

「○教育の日を柱として」は不要。教育の日がなくても、恒常的に連携と教育力の向上はやるべきだから。

③P4「施策②」の「主な取り組み」

「☆九州大学と連携して21世紀型の・・・」と「○いとしま学を核として」の部分。「21世紀型の学力を育むカリキュラム」が何かわからない。「いとしま学を核として・・・自ら課題発見や調査に取り組む」とあるが、「課題発見や調査に取り組むのは全教科通して身に着けるもの。

変更案として、

「☆九州大学と連携して、これからの時代に必要な確かな学力と自ら課題発見や調査に取り組む学習を推進します」

「○いとしま学を核として、地域に愛着と誇りを持てるような学習を行います。」としてはどうでしょうか。

④P5「施策③」の「主な取り組み」

「不登校や問題行動」を、「不登校、問題行動」としてはどうでしょうか。不登校と問題行動を並列にすると、不登校=問題行動のような印象を持ちます。

⑤P8「施策②」の「主な取り組み」

「○子どもたちがさまざまな・・・」の部分。ざっくりしすぎだと思います。現状と課題のところに、ドリームトレイサーやジュニアリーダー研修のことが記載されているので、「○子どもたちが主体的に取り組み、リーダーとなれるような環境の充実を図ります」などとしてはどうでしょうか。

⑥P14「施策①」の「現状と課題」

・1段落目「女性が活躍する機会」を、「女性が参画する機会」とする。「活躍」という言葉があいまい。また、「活躍したい」と思っている女性は少ない。

(豊田委員)

1-(2) 保育・学校教育の充実の施策

第1部第2章「糸島市を取り巻く背景」にも『特に情報化やI C Tの活用、基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え』とあるので、施策⑤として「ICT 社会への対応」など ICT 教育そのものや、教育現場に対する ICT インフラの整備を盛り込むべきと考えます。

	基本計画の構成
章	第2章 行政経営戦略
意見内容	
(藤原委員) 政策(1)、施策③民間事業者や大学との連携強化という部分が、54ページでは、民間事業者や大学と連携した課題解決となっています。 (中尾委員) (1)-③ 市民一人ひとり、市民団体、民間事業者や大学との連携強化として、行政や企業、大学にお任せにするのではなく、市民一人ひとりが協働で取り組んでいくという意識付けをする必要がある。	

	基本計画の構成
章	第3章 重点課題プロジェクト
意見内容	
(那須委員) 「第3章 重点課題プロジェクト」の下欄 <市民意見の反映>部分 各施策の主な取組の「☆」印は、・・・ ↓ <u>次ページ以降に示す</u>各施策の主な取組の「☆」印は、・・・ (三谷委員) 最下部の枠内、「各施策の主な取組の「☆」印は、・・・」という文面は、この章の最後にもっていくべきか？本章では、施策までしか述べておらず、取り組みの記載はない。 (豊田委員) 資料の構成に関する意見ですが、記入する場所が見当たらないのでこちらに記入します。《市民意見の反映》という凡例の説明文ですが、今まで☆が出てこなかったもので、この場所にあると混乱します。第1章の前に、「資料の見方」のようなページを挟んで説明したほうが良いのでは？ (中尾委員) 市民意見の反映として、☆印を付けるとしているが、第2次総合計画の策定段階で、市民委員会や高校生、中学生の意見を聞き、その結果を盛り込んだプロセスを記載し、市民の意見を十分反映した計画であることを力説すべき。一方、意見を盛り込んだ結果として	

施策の展開があるので、特に印による分類は必要ないと思う。

(三谷委員)

「取組」は「取り組み」の方がよいのではないかと？前者は、公用文や相撲の取組などで使用すると思います。確認してください。

(加藤委員)

P61 重点課題：防災・減災 自助 互助 共助マップとは？ 自助 共助 公助マップでは。介護保険制度では、「共助」は、社会保険を指すために互助を入れて4つとなっています。防災では、基本的には、自助 共助 公助ではないでしょうか。（もしくは、子どもたちに伝えるなら「互助・共助」）

(加藤委員)

P64 重点課題：超高齢社会 解決すべき具体的な課題の1行目 75歳を向かえ→迎え

章	第2章 行政経営戦略				
政策	(1) 政策推進マネジメント				
施策	施策①行政改革の推進	ページ	P52	項目	■現状と課題■
意見内容					
(小川委員) 『市民に最大の効果をもたらす「戦略的経営」の実現』とありますが、「戦略的」そして「経営」はどのような意図で使われているのでしょうか。行政改革の推進の一環として『「戦略的経営」の実現が重要な課題となっている』とするのであれば、その課題に対して糸島市として、どのような目標を掲げ、どのように計画し、どのように実行していくのかを示す必要があるのではないかと思います。 (那須委員) 他の施策を含む全体を通して、まだまだ横文字が多すぎるような気がします。対象となる読者をどのように想定するのか。用語解説が多ければ多いほど、一般市民にとっては「難解な読み物」になってしまう可能性があります。 (藤原委員) 義務的経費と政策的経費という文言はカッコ書きでそれぞれ説明をつけるか、用語解説リストに含めて説明する必要があると思います。 (柚木委員) P52 現状と課題 マイナンバーカードの有効利用 イトゴンカード廃止になり防災避難でもマイナンバーカード活用 保険証等も入れると申請者が増えるのではないかな。					

(豊田委員)

3つ目、表現の変更を提案します。職員の能力や生産性を向上させるのではなく「行政サービスの利便性を向上させつつ、効率化せねばならない」といった目線の記載にするべきではないでしょうか。

章	第2章 行政経営戦略				
政策	(1) 政策推進マネジメント				
施策	施策①行政改革の推進	ページ	P52	項目	■主な取組■
意見内容					
(小川委員) 上記意見で示した「戦略的」「経営」を反映した取り組みを示す必要があると思います。 (那須委員) 他の施策を含む全体を通して、まだまだ横文字が多すぎるような気がします。対象となる読者をどのように想定するのか。用語解説が多ければ多いほど、一般市民にとっては「難解な読み物」になってしまう可能性があります。 (清原委員) 現状と課題欄の1項目にある「市民とまちづくりの方向性を共有する」という課題を反映した取り組みが示されていないように思います。また、1項目にある「『戦略的経営』の実現」に関して、戦略的視点をどのようにどこから得るのが不明であったため、ご説明いただきたいと思いました。2項目にある「マイナンバーの有効活用」も同様に、それを反映した取り組みが示されていません。 (豊田委員) 「電子申請の充実、決済サービスの拡充」など、「行政サービスの拡充・利便性の向上」という施策も明記すべきでは。市民に対するサービスレベルが上がる事もさることながら、(先日、国立大学の業務改革としてRPAの導入支援をした経験から発言するが)結局RPAを入れても外部とのやりとりを電子化しない限り、事務の効率化は限定的であり、この理由から同施策の推進は不可避です。あと、RPAやAIというワードが散見されすが、これも少し心配になります。上記のように、外部とのインタフェースを電子化し、市役所内事務をペーパーレス化する事が前提条件となると思います。					

(辰巳委員)

「電算システム」というと計算システムのイメージがありますが、これで間違いないでしょうか？「情報システム」ではないでしょうか？（または情報基盤システム？）

章	第2章 行政経営戦略				
政策	(1) 政策推進マネジメント				
施策	施策①行政改革の推進	ページ	P52	項目	■施策に関する目標達成指標■
意見内容					
(小川委員) 戦略的経営を反映した指標の検討が必要かと思われます。 (那須委員) 他の施策を含む全体を通して、まだまだ横文字が多すぎるような気がします。対象となる読者をどのように想定するのか。用語解説が多ければ多いほど、一般市民にとっては「難解な読み物」になってしまう可能性があります。 (吉川委員) 「マイナンバーの有効活用」が挙げられていますが、今回のコロナ危機に鑑み、数値目標にマイナンバー取得率をあげておくの良いと思います。(確実に上がるとは思いますが) (豊田委員) 「電子化した行政サービス数」など、市民の利便性向上を測る指標を加えて欲しい。					

章	第2章 行政経営戦略				
政策	(1) 政策推進マネジメント				
施策	施策②効果的な組織づくりと経営感覚を持った職員の育成	ページ	P53	項目	■現状と課題■
意見内容					
(那須委員) 今般の新型コロナウイルス感染症等に伴う対策をより意識的に考えていく必要があると思われます。今後、こうした緊急事態宣言が発出された場合における業務遂行にあたっての組織づくりへの対応についても、一步踏み込んだ施策を盛り込んでおいた方が良いと考えます。 (中尾委員) 「市民団体や企業と協働・連携により行政運営を行っていく事が求められています」を加える。					

章	第2章 行政経営戦略				
政策	(1) 政策推進マネジメント				
施策	施策②効果的な組織づくりと経営感覚を持った職員の育成	ページ	P53	項目	■主な取組■
意見内容					
(那須委員) 今般の新型コロナウイルス感染症等に伴う対策をより意識的に考えていく必要があると思われます。今後、こうした緊急事態宣言が発出された場合における業務遂行にあたっての組織づくりへの対応についても、一步踏み込んだ施策を盛り込んでおいた方が良いと考えます。 (三谷委員) 広い視野を持った人材を育成するために、国内他自治体や国の機関などへの「留学制度」などを取り入れてはどうでしょうか。内向きの視点ではなく、外から糸島市を見つめることが今後は重要になると思われます。 (中尾委員) 「市職員の市民団体や企業と協働・連携活動に向けての研修や実践の場づくりを行っていきます」を加える。 (清原委員) 2項目にある「職員の能力を最大限発揮する」ための取り組みに関して、記載してある「人材配置」に加え、引き継ぎについても検討すべきだと考えます。部署異動の多い市役所内で、職員の能力を効率的に引き出すためには、引き継ぎをスムーズに行うべきです。5項目にある「働き方改革」に関して、多様な働き方を導入するには、副業の検討が必要だと考えます。様々な制約があることは承知していますが、時差出勤制度やテレワークに加え、新しいキャリア形成の方法として、副業許可に向けての取り組みもあると良いと思います。					

章	第2章 行政経営戦略				
政策	(1) 政策推進マネジメント				
施策	施策②効果的な組織づくりと経営感覚を持った職員の育成	ページ	P53	項目	■施策に関する目標達成指標■
意見内容					
(那須委員) 今般の新型コロナウイルス感染症等に伴う対策をより意識的に考えていく必要があると思われます。今後、こうした緊急事態宣言が発出された場合における業務遂行にあたっての組織づくりへの対応についても、一步踏み込んだ施策を盛り込んでおいた方が良いと考えます。 (清原委員) 「市が、効率的な行政運営を行なっていると感じる『市民』の割合」に加え、市役所職員から見ての目標達成指標も必要だと考えます。対外的に、市の効率的な行政運営が認められている状況は望ましいですが、まずは、内部からの評価を大切にすべきだと思います。					

章	第2章 行政経営戦略				
政策	(1) 政策推進マネジメント				
施策	施策③民間事業者や大学と連携した課題解決	ペ ジ	P54	項目	■現状と課題■
意見内容					
(中尾委員) 市民協働のまちづくりを一層推進していく必要があります、という課題を入れる。					

章	第2章 行政経営戦略				
政策	(1) 政策推進マネジメント				
施策	施策③民間事業者や大学と連携した課題解決	ページ	P54	項目	■主な取組■
意見内容					
(那須委員) 研究成果の還元のあり方についても、より丁寧な情報発信が求められていると思われます。その仕組みについて、一文盛り込んでいた方が良いと考えます。 (三谷委員) 「糸島の地域資源を活かした研究・開発の場の提供」といった取り組みはいかがでしょうか。研究者として、糸島市の地域資源を活用することで、糸島への人の流れを構築できるとともに、地域との協同事業などが生まれるといいと思います。 (中尾委員) 市民協働によるまちづくりを一層、推進していきますという趣旨の文言を入れる。現在の連携協定に基づく大学は現状と課題で列挙されているが、今後の5年間に更なる連携大学数を増やしていくという文言も入れるべきと考える。 (清原委員) 3項目にある取り組みは、主に、大学の教員との取り組みに感じますが、市役所と大学生が直接関わる機会もあって良いと考えます。教員を介した「課題解決に向けた研究や取り組み」だけではなく、インターンシップ、意見交換会、政策提言プランコンテストなど、可能性は無限にあります。研究か否かにとらわれず、学生と関わりを持つことが、幅広い課題解決に繋がると思います。					

章	第2章 行政経営戦略				
政策	(1) 政策推進マネジメント				
施策	施策③民間事業者や大学と連携した課題解決	ページ	P54	項目	■施策に関する目標達成指標■
意見内容					
(中尾委員) 市民提案型の事業数など市民による行政への参画の指標を入れる。					

章	第2章 行政経営戦略				
政策	(2) 財務マネジメント				
施策	施策①自主財源の確保	ページ	P55	項目	■主な取組■
意見内容					
(三谷委員) 市の独自の税収として、町並みを美しくするような施策を期待します。市内の道路沿いの至るところに看板が立ち並び、福岡市内と比べると見苦しいと感じます。質の高い都市を目指すためにも一考ください。 (中尾委員) ○の1, 2番目で収納率の向上には触れているが、おおもととなる「市・県民税調定額」について触れるべき（確保に努める、もしくは、減少率に歯止めをかける）。 (清原委員) 広告スペースの活用による資金獲得も考えられると思います。市役所の発行する書類や、市役所が持つ施設の壁など、広告スペースとして貸し出せる場所はたくさんあります。掲載する広告内容の精査は必要ですが、市役所に置いてあるというバリューを求める企業からの需要が見込めます。広告スペースを行政から買い取り、運用している企業もあるようです。					

章	第2章 行政経営戦略				
政策	(2) 財務マネジメント				
施策	施策①自主財源の確保	ページ	P55	項目	■施策に関する目標達成指標■
意見内容					
(藤原委員) 財政力指数と受益者負担の割合という言葉は、用語解説で説明する必要があると思います。 (中尾委員) 主な取り組みに合わせて、市・県民税調定額を指標に加える。					

章	第2章 行政経営戦略				
政策	(2) 財務マネジメント				
施策	施策②規律ある健全な財政運営	ページ	P56	項目	■現状と課題■
意見内容					
(藤原委員) 扶助費という言葉はかっこ書きで説明を加えるか、用語解説で説明する必要があると思います。					

章	第2章 行政経営戦略				
政策	(2) 財務マネジメント				
施策	施策②規律ある健全な財政運営	ページ	P56	項目	■主な取組■
意見内容					
(豊田委員) 予算に上限がある以上、優先順位の設定は当たり前だと思うのですが、市民の関心は「優先順位」そのものだと思います。「優先順位そのもの」や、それが明記できなくても「優先順位の設定方法（どういう風に優先順位をつけるか?）」を追記できますか？					

章	第2章 行政経営戦略				
政策	(2) 財務マネジメント				
施策	施策②規律ある健全な財政運営	ページ	P56	項目	■施策に関する目標達成指標■
意見内容					
(藤原委員) 市債残高、基金残高、将来負担比率、実質公債費比率という言葉は、用語解説で説明する必要があると思います。 (柚木委員) P56 目標達成指標の見方がよくわかりません。たとえば基金残高 95.5→61.2 取り崩しする？ (辰巳委員) これらの目標が妥当であるかどうか判断できません。 目標値はきりのよい値ではありませんが、これらの根拠はあるのでしょうか。 また、目標値は現状よりも悪化していますが、「主な取組」の結果、これらの値になると理解していますが、もし何もしないと、どの程度の値になるのでしょうか。					

章	第2章 行政経営戦略				
政策	(3) 公共施設マネジメント				
施策	施策①公共施設の長寿命化と最適な配置	ページ	P57	項目	■主な取組■
意見内容					
(小川委員) ライフサイクルコストは、ゆりかごから墓場までと言われる生産・購入・使用・廃棄にかかるコストです。長期的に使用できることを考えることはもちろんですが、有形固定資産の購入時にライフサイクルコストを考慮する必要があると思います。資産の購入価格が安くても運用・保守・廃棄コストが高くなればライフサイクルコストは高くなります。ですので、購入時にライフサイクルコストを加味して検討する必要もあるかと思います。 (三谷委員) 「インフラ施設の長寿命化、質を維持・向上させる」とあるが一般的であり、具体性に欠ける。 (清原委員) 1項目にある「新庁舎の建設」に関して、市民に開かれたオープンな空間を目指すべきだと考えます。また、公共施設建設の場合でも、利益を生む構造を維持できれば、持続的なマネジメントが可能になります。例えば、福岡市にある水上公園は、一階にテナントスペースを設けることで収益を得ています。2項目にある「公共建築物の売却」に関して、建物ごと売却をするのか、土地のみの売却になるのか、また売却の価格設定はどうするのか、等の協議方法がとても重要になってくるかと思います。その最適化の計画を教えてください。					

章	第2章 行政経営戦略				
政策	(3) 公共施設マネジメント				
施策	施策①公共施設の長寿命化と最適な配置	ページ	P57	項目	■施策に関する目標達成指標■
意見内容					
(小川委員) 上記意見を加味すると、購入時にライフサイクルコストを考慮して購入する指標を入れることを検討していただけたら幸いです。 (中尾委員) ○の四つ目、「市民参画の機会を確保し」では、何に対しての市民参画かがわからないので、例えば、「アクションプラン推進の際は、…」を付け加える。 (辰巳委員) 公共建築物の延床面積総量の削減率の基準年度はいつなののでしょうか。また、ここでは延床面積総量の現状と目標値を示した方がシンプルだと思いますが、なぜ削減率にしたのでしょうか。					

章	第2章 行政経営戦略				
政策	(3) 公共施設マネジメント				
施策	施策②多様な入札・契約手法の導入	ページ	P58	項目	■現状と課題■
意見内容					
(那須委員) ○安価で優良なものやサービスを調達するためには、適正な入札、契約事務が求められています。 ↓ ○安価で優良なものやサービスを調達するためには、<u>公正かつ</u>適正な入札、契約事務が求められています。					

章	第2章 行政経営戦略				
政策	(3) 公共施設マネジメント				
施策	施策②多様な入札・契約手法の導入	ページ	P58	項目	■施策に関する目標達成指標■
意見内容					
(辰巳委員) 総合評価方式の件数増加などは目標に設定することはできないのでしょうか。					

章	第3章 重点課題プロジェクト	ページ	P59	
意見内容				
(三谷委員) 「実施計画に計上する」という用語の使い方は妥当か？「計上する」とは、数値としてあげることの意味するのでは？取り込むとかの方が妥当か？ (中尾委員) 重点課題プロジェクトについては、総合計画そのものが、ワンランク上をいくために非常に重要と考えるので、以下の点について意見を述べる。 ①基本計画は、今後5年間であるが、それぞれのプロジェクトは、基本構想の第4章「まちづくりの樹点課題」に基づいている。従って、基本構想の期間である10年後を見据えたプロジェクトであるべきと考える。従って、60ページ以降の各プロジェクトは、「アプローチ」は、今後5年間。「ゴール」は、10年後のゴールと5年後の中間イメージ。「ロードマップ」は、今後10年間とすべきであるとする。 ②60ページ以降の各プロジェクトは、コンパクトに1ページにまとまっているが、計画を手にする方にわかりやすく伝わるためにも、最低2ページは必要と考える。 ③また、内容についても、施策の展開でカバーされている個別案件は極力省き（最優先して解決しなければならない重要案件は除く）複数の分野にまたがり、ワンランク上のまちをめざし、市民総力で、最優先して取り組むべき項目とする。 (豊田委員) ここで説明すべきは、なぜこの5つが重点課題プロジェクトなのか？だと思います。あと、新型コロナウイルスなど、パンデミックに関する論点は重点課題として取り扱うにふさわしいと感じます。				

章	第3章 重点課題プロジェクト				
重点課題	子育て・教育環境	ページ	P60	項目	■解決すべき具体的な課題■
意見内容					
(那須委員) 「解決すべき具体的な課題」部分 保育所・幼稚園等から小学校へ、小学校から中学校へと、子どもたちや保護者がスムーズに新たな環境に入っていける取組が必要です。 ↓ 保育所・幼稚園・こども園等から小学校へ、小学校から中学校へと、子どもたちや保護者がスムーズに新たな環境に入っていける取組が必要です。 (佐藤委員) 2段落目 「保護者ニーズにこたえきれいていません」とあるが、地域は保護者のニーズにこたえるために存在するものではないと思います。このページ全体として「保護者が『お客さん』」「地域が『ニーズにこたえる人』」のような印象があります。「保護者も地域の一員」「保護者も主体となる」という視点が必要だと思います。この文章は、「子どもたちが地域で安心して過ごせる場所が少ない」だけでよいでは、と思います。保育所や児童クラブは、保護者が働いている人たちのもので、設置目的も異なるため、混在をしないほうがいい。 (中尾委員) 総合計画の実現のために、特に各プロジェクトを強力に推進するため、それを担う人材の育成が必要であり、未来の糸島、日本、世界を担う人材の育成に向け個別に行われている人事育成を切れ目なく、総合的に行う仕組みづくり、組織づくりが求められています。を加える。					

章	第3章 重点課題プロジェクト				
重点課題	子育て・教育環境	ページ	P60	項目	■アプローチとゴール■
意見内容					
(佐藤委員) 「地域デビュー」の言葉の意味が分かりません。どういう意味でしょうか？「地域の活動や地域の人と繋がる場をつくり」ではどうでしょうか。 (藤原委員) アプローチの最初に述べられている、“小学校一年生になる前に、子供たち・保護者の地域デビューの場をつくる”という部分に対応するロードマップが無く、このアプローチをどのように達成するのか不明です。既存の子供会や行政区活動を活発化するのみということでしょうか？ (豊田委員) 2つめですが、地域のボランティアに限定する場合、なぜ限定するのか理由が必要だと感じます。少し話しが拡大しますが、東京からの移住者として感じるのは、バザーの開催や自治会活動など、半ば強制的なボランティアのような活動が多いところです。このスキームは果たして持続可能なのか？少々疑問に感じています。非常に難しいとは思いますが、ある程度ちゃんと報酬を払ってお任せするスキームの方が経済が回る（少なくとも貨幣が回る）し、サービス提供側も労働力を投下する理由付けができる気がします。 (佐藤委員) 「身近な先輩とのかかわり(斜めの関係)」とありますが、斜めの関係は、先輩だけではなく、後輩(自分より年下の者)とも築けます。「親や教師以外の身近な人との関わり」はどうでしょうか。					

(那須委員)

「アプローチとゴール」の「ゴール」部分

- ・子どもたちが、成長に応じて環境の変化に対応しながら、保護者の子育ての負担軽減も図られ、子どもたちが社会性や人間性を身に付け、社会とつながっていけるようになる。

↓

- ・子どもたちが、成長に応じて環境の変化に主体的に関わりながら社会性や人間性を身に付け、身近な社会とつながっていることを実感できるようになる。

(佐藤委員)

「ゴール」の部分。ゴールは「地域の中で、子どもたちが社会性や人間性を身に着ける」ことだと思います。「保護者の負担軽減」はゴールではなく、アプローチの方に入れてはどうでしょうか。その際、「保護者の負担軽減」というよりも、「保護者だけですべてを抱えこむのではなく(孤育て)、地域と繋がり、」というニュアンスで記載してはどうでしょうか。

(中尾委員)

アプローチ：「市役所内に総合的な人材育成のための組織（糸島仕事づくり・ひとづくり推進機構：仮称）を設置する。」を加える。
3つめの○の結びを、社会と関わる・つながる・切り拓くための仕組みづくりを構築します。とする。

ゴール：糸島で学校や家庭、企業、団体、行政が連携して、5つの重点プロジェクトを担う人材を総合的に育成する取り組みをはじめ、育成された人材は、糸島のみならず、日本、世界の各地で活躍している。

章	第3章 重点課題プロジェクト				
重点課題	子育て・教育環境	ページ	P60	項目	■ ロードマップ ■
意見内容					
(三谷委員) 「子ども広場」とは？よくわからない固有名詞があって理解できない。 (清原委員) 「放課後子ども広場の展開」にある、「遊びや地域の人材を活かした体験活動などを行う教室を開催」に関して、「解決すべき具体的な課題」に挙げられている「人間関係などを上手く築けない子どもたち」に真に必要なのは、教室ではなく、子どもたちが自発的にやりたいことをやれる空間や、ただ集まれる空間である可能性があります。教室という名称ではなく、より自由な空間が望まれると思います。「『斜めの関係』講座の展開」にある、「協定締結大学の学生」に関して、大学生にとどまらず、世代を超えて集まるべきだと考えます。小学校や中学校、高校時代から社会人と関われる機会は重要であり、また、県外や海外の人とも関わることで、視野が広がることを期待できます。 (佐藤委員) アプローチの1段落目につながるロードマップがない。 (中尾委員) 上記の糸島人材育成ラボを加える。「斜めの関係」講座に切れ目ない人材育成の必要性から、「高校生」「地域の大人」「地域の企業人」を加える。また、小中高校生が相談したいときにいつでも、アクセスできる「地域の大人や大学生による相談所」を設置する。(イベントから、日常へ)					

章	第3章 重点課題プロジェクト				
重点課題	子育て・教育環境	ページ	P60	項目	■ 目標達成指標 ■
意見内容					
(三谷委員) 達成指標がアンケートの結果になっているが、調査数などに左右されないか。 (清原委員) 「安心して子どもが生まれ育てられる環境が整っていると感じる」主体は、父なのか母なのか両親ともになのかが不明であるため、明確にしていきたいです。また、育てる者の意を主体とするのならば、子どもの目線での指標も必要だと思います。 (藤原委員) 糸島市が好きな中学3年生の割合という指標の数値は、どのようにして入手されるのでしょうか？ (清原委員) 「糸島市が好きな中学3年生の割合」に関して、ロードマップにある対象は小学校高学年と中学校1年生が主であるにも関わらず、中学3年生に絞られている点に違和感を感じました。 (豊田委員) 2つ目の指標に違和感を感じます。中学3年生を指標とする理由が必要では？					

(辰巳委員)

45.0 以上の「以上」は不要ではないでしょうか。

(中尾委員)

○ビジネスプランを作成する児童・生徒数

○模擬起業を立ち上げる児童・生徒数

章	第3章 重点課題プロジェクト				
重点課題	防災・減災	ページ	P61	項目	■アプローチとゴール■
意見内容					
(那須委員) 重点課題：防災・減災 「アプローチとゴール」の「アプローチ」部分 ・学校と地域が連携した訓練の実施により、地域の連携体制を強化します。 ↓ ・学校と<u>家庭</u>・地域が連携した訓練の実施により、地域の連携体制を強化します。 (加藤委員) P61 重点課題：防災・減災 自助 互助 共助マップとは？ 自助 共助 公助マップでは。介護保険制度では、「共助」は、社会保険を指すために互助を入れて4つとなっています。防災では、基本的には、自助 共助 公助ではないでしょうか。（もしくは、子どもたちに伝えるなら「互助・共助」）					

章	第3章 重点課題プロジェクト				
重点課題	防災・減災	ページ	P61	項目	■ 目標達成指標 ■
意見内容					
(三谷委員) 家族でどう行動するかルールとは？あまりにも具体性がないのではないか？ (藤原委員) 家族で災害時にどう行動するかルールを決めている割合という指標の数値は、どのように入手されるのでしょうか？ (清原委員) 防災教育の場は、学校に偏っているにも関わらず、『家族で』災害時にどう行動するかルールを定めている割合』ではかっている点に違和感を感じました。この指標は、家族での防災対策を提供している場合の目安にすべきであり、また、学校での教育が成功しているかはかる指標が別に必要だと考えます。					

章	第3章 重点課題プロジェクト				
重点課題	稼ぐ・経済活性化	ページ	P62	項目	■解決すべき具体的な課題■
意見内容					
(中尾委員) ○の一つ目については、重要な課題ではあるが、プロジェクトにはなじまないと考え、施策の展開の担い手育成で触れるべき（理由：アプローチの多様な働き方が課題の解決にはつながらず、雇用のミスマッチの問題であるから） (清原委員) 2項目にある「就職世代が首都圏に流出」している現状を課題としている点に関して、一度首都圏に流出する現状を問題視するのではなく、UターンやIターンの可能性も考え、最終的に糸島でしごとをする人がいないことを課題とすべきだと思います。					

章	第3章 重点課題プロジェクト				
重点課題	稼ぐ・経済活性化	ページ	P62	項目	■アプローチとゴール■
意見内容					
(三谷委員) 糸島の地域資源の発掘などを行うアプローチが必要ではないか？ (中尾委員) ○のひとつめ、多様な働き方を提案し、糸島の地域資源を活用するサテライトオフィスの誘致や既存企業や起業家の業務支援を行う副業やテレワークの推進を行います。 ○の二つ目、「大学や地域などと連携しながら」を「大学や地域と連携する“糸島産業戦略研究所”を立ち上げ」とする。 ○の三つ目、中学生だけでなく、小学校高学年から高校生までの8年間の切れ目ない継続的伴走が大切であるので、その表現に変える (佐藤委員) ゴールについて。「糸島に居住し、糸島で仕事をする」と明確にしてはどうでしょうか。					

章	第3章 重点課題プロジェクト				
重点課題	稼ぐ・経済活性化	ペー ジ	P62	項目	■ロードマップ■
意見内容					
(中尾委員) 別紙、糸島市総合計画 重点プロジェクトへのご提案をご参照ください。					

章	第3章 重点課題プロジェクト				
重点課題	稼ぐ・経済活性化	ページ	P62	項目	■ 目標達成指標 ■
意見内容					
(中尾委員) 糸島産業戦略研究所が提案する、仕事に結びつく可能性のある、糸島の地域資源提案数 ビジネスプラン応募者数、起業実現数 起業による糸島市の生産者からの調達額 起業による糸島市内企業への発注額 サテライトオフィス誘致数 (清原委員) 起業を推進しているにも関わらず、「就業」のみを指標としている点に違和感を感じました。創業している人の目標値も定めるべきだと思います。また、糸島出身の人とそうでない人で、具体的な対策が異なるため、分類して目標設定をすべきだと思います。 (豊田委員) 足の長いプロジェクトだと思いますので、就業しているヒトの割合に加え、意識調査のような指標を加えた方が効果測定にふさわしいのではないのでしょうか？（例えば、将来糸島市で働きたいと考えている未就業者の割合など）					

章	第3章 重点課題プロジェクト				
重点課題	学術研究都市づくり	ページ	P63	項目	■アプローチとゴール■
意見内容					
(中尾委員) ゴール⇒イノベーションや新産業が生まれ、の前に「世界に波及する地域の課題解決につながる」を加える。 (清原委員) 1項目にある「新産業の創出や社会課題などの解決につなげる組織」に関して、組織の体制がどのような想定であるのかが気になりました。ゴールにある「地域と大学の学生・教職員などが活発に交流する真の学術研究都市」をつくるためには、その組織にどのような人が関わり、相互作用しているかが重要だと思います。共に研究をするためには、研究外での恒常的な関わりも必要不可欠です。糸島サイエンス・ヴィレッジ実現のためには、普段からのコミュニティ形成と、組織体系も十分に検討するべきだと思います。					

章	第3章 重点課題プロジェクト				
重点課題	学術研究都市づくり	ページ	P63	項目	■ロードマップ■
意見内容					
(藤原委員) 運営会社の設立に関し、R3とR4の準備組織に参画の後、R5とR6が空欄になって、R7の運営会社による運営開始につながっていますが、R5とR6は具体的には何もしないということでしょうか？					

章	第3章 重点課題プロジェクト				
重点課題	学術研究都市づくり	ページ	P63	項目	■ 目標達成指標 ■
意見内容					
(那須委員) 目標値が低すぎるような気がします。 (中尾委員) 54 ページの大学等と連携し、課題解決の基礎となった研究がきっかけとなり起業に結びついた事例数を目標達成指標に加える。					

章	第3章 重点課題プロジェクト				
重点課題	超高齢社会	ページ	P64	項目	■解決すべき具体的な課題■
意見内容					
(三谷委員) 75 歳を「迎え」が正しい表記だと思います。 (加藤委員) P64 重点課題：超高齢社会 解決すべき具体的な課題の1行目 75 歳を向かえ→迎え					

章	第3章 重点課題プロジェクト				
重点課題	超高齢社会	ページ	P64	項目	■ ロードマップ ■
意見内容					
(藤原委員) シニアマッチングサービスの導入に関し、コーディネーターの配置が考えられていますが、具体的には、どこに配置することをお考えでしょうか？コミュニティーセンターに配置される地域コーディネーターの役割に付加する予定でしょうか？一人の人が担う役割の負担が増加する恐れがあるのではないかと思います。					

章	第3章 重点課題プロジェクト				
重点課題	超高齢社会	ペー ジ	P64	項目	■ 目標達成指標 ■
意見内容					
(那須委員) 目標値が低すぎるような気がします。					